

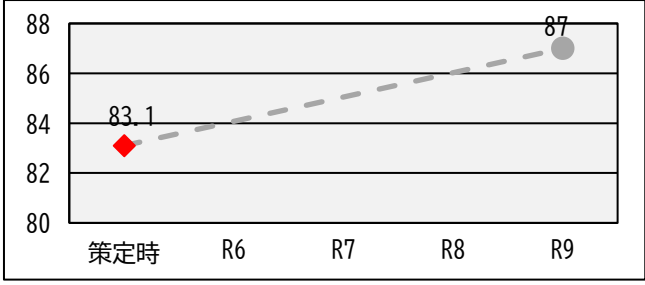
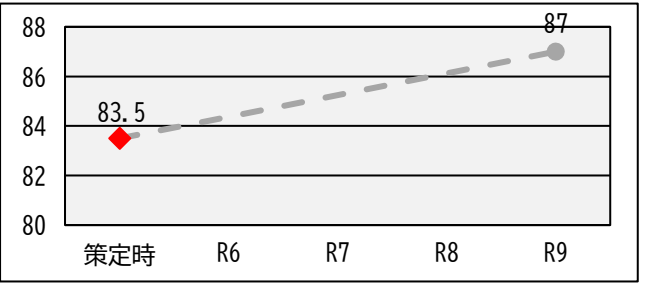
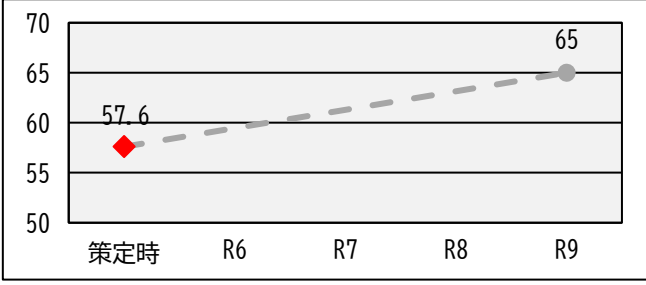
施策名	4 学校・教育		
R9年度末にめざす状態（施策目標）【P】	主体的に楽しく学ぶこどもたちが増えている	進捗度	B

【進捗度】 A：4年後にめざす状態をすでに実現している、B：4年後にめざす状態の実現に向けて大変順調に進んでいる、C：4年後にめざす状態の実現に向けて概ね順調に進んでいる、D：4年後にめざす状態の実現には努力が必要である、E：4年後にめざす状態の実現には相当努力が必要である

総合計画審議会からの施策目標の実現に向けた講評等

(1)主体的に学ぶ人の育成		
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】	施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】
・オンラインコミュニケーションプラットフォームを活用したことで、教育大綱が目指す「こどもたち一人ひとりが自分のペースで自分に合った学び方を選択し、必要に応じて必要な人と共に学び合える授業づくり」を推進することができた。 ・伴走型で研修を行う中で、教職員が、自由進度学習や学び合いの授業等について活発に意見を出し合い交流する姿が見られた。市内でも、このような授業を行う教職員が増えてきている。 ・学校に通いづらい生徒の居場所・学び支援として中学校2校に校内サポートルームを実証的に開設したことで、多くのこどもたちの心の居場所となった。	No. 1 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指す授業改善の支援	越境型・伴走型支援を行い、市内36名全国56名が参加。対面型研修3回・オンライン研修8回実施。
	No. 2 AI学習ドリルを活用した個別最適な学びの推進	自由進度学習と組み合わせ、個別最適な学びと自主的な学びの推進を行った。
	No. 5 校内サポートルーム事業	教室に入りづらい生徒に対しての居場所となった。生中・大中 31名
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】	施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】	
・より多くの子どもたちが享受できるようにするためには、研修を受けて学ぶ教職員の数がまだ十分とはいえない。また、研修を受けた教職員の学びが各学校の中で十分に広がっていない。 ・校内サポートルームやほっとルームに通う児童生徒の中には、利用が継続していかない児童生徒も一定数いる。	・オンライン研修の講師が校内研修にも来ていただき、継続した支援が行える体制を整える。 ・学校に通いづらい児童生徒に対しては、心理相談員を配置してアセスメントを行いながら支援を行う。 ・校内サポートルームやほっとルームの支援員の研修も行いながら、市の不登校支援ビジョンに基づいた支援を行う。	

(2)主体的に学べる教育環境づくり		
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】	施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】
・学校施設の老朽化に対して、上中学校の長寿命化改修工事に係る実施設計や仮設校舎の借上契約等を行うとともに、生駒南小学校・生駒南中学校整備に係る基本計画の策定を行い、計画的な施設改修を進めた。 ・人的支援体制の整備として「いこま教育・保育資格バンク」を設置し、講師、特別支援教育支援員、スクールサポートスタッフの欠員補充に迅速に対応することで、学校現場の教育活動の継続性確保に寄与した。 ・学校給食センターについては、令和3年度から継続して施設・設備の更新・改修を実施し、令和6年度に一連の改修工事が完了した。	No. 10 講師不足対策	令和6年度末時点で登録者230名、年度途中の欠員の対応を行い、バンク経由で19名採用。
	No. 14 生駒南小学校・生駒南中学校整備事業	基本計画策定にあたり、説明会7回（教職員3回、地域向け3回、保護者向け1回）、相談会12回、意見交換会3回実施。
	No. 15 学校屋内運動場空調設備整備事業	市内小中学校の実施設計を完了し、前倒しで中学校6校、小中学校1校の工事に着手した。
	No. 16 学校給食センター整備改修工事	工事完了により、安心・安全な学校給食の提供を継続して実施することができた。
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】	施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】	
・学校施設は災害時の避難所にもなるが、すべての施設においてバリアフリー化をはじめ、時代の変化への対応が完全にできてはいない。 ・教員不足の状況が今後も続くことが予想される。	・学校施設については、バリアフリー化をはじめとして時代の変化に対応するとともに、先に導入した音楽室、図書室、多目的室等のエアコンの老朽化への対応や室内照明のLED化などにも計画的に進める。 ・教員不足については、今後、広報の強化による登録者の拡大と、いこま教師塾等の企画による人材育成を図る。あわせて、デジタルツール（LINE/Logoフォーム）を活用した迅速なマッチング体制の構築を進める。 ・学校給食センターについては、適切に施設・設備の維持管理を行い、安心・安全な学校給食の提供の継続する。	

《参考》施策の進捗状況を測る代表的な指標【C】		
I 学校に行くのは楽しいと思うこどもの割合（％）	II 自分にはよいところがあると思うこどもの割合（％）	III 施設の満足度（小・中学校）（点）
		

《参考》めざす状態に対する市民実感度 「そう思う」＋「どちらかというと思う」と回答した人の割合	
【R6.8月】 26.6%	（参考）前回値 －